

進化経済学会第3回「制度と統治」研究会、2013年12月7日
「ボルタンスキー／シャペロ『資本主義の新たな精神』（第3部）を読む」

第2章 プロジェクトによる市民体の形成

- ・ネットワークの世界：出会いと結合の増殖からなる社会生活
 - ・プロジェクト：結合の機会、紐帯の安定化、絶対的流動に対する足かせ（165）
ネットワーク型に由来する要求と正当な秩序の構成への要求との妥協の形成
 - ・プロジェクトによる市民体：媒介者の活動に固有の価値を付与
媒介それ自体が価値、固有の偉大さ
その構造 同等性の原理（上位の共通善）、正義の諸形式、市民体の普遍的性質
- ① 共通の上位原理：活動、プロジェクト、紐帯の増殖
- ・活動 *activite*＝人びと、モノの偉大さを測定するための一般的等価物 *l'equivalent general*
活動のポートフォリア＝賃労働、自由業的労働、家事労働、無償労働、教育的労働
プロジェクトを生み出す：熱狂と可動性（プロジェクトから離脱する適性）の矛盾
雇用可能性の開発：個人的プロジェクト、自己自身が自己自身の進化の当事者
 - ・媒介者：プロジェクト・リーダー、コーチ、専門家、革新者
 - ・結合の道具：新テクノロジー、信頼関係、協調、ネットワーク型企業
 - ・偉大な者＝適応性、
多能性、卑小な者＝コミット不可能な者、定着と安全性に固執
- ② 正義の諸形式：結合の再配分
- ＝雇用可能性を与える、情報を再配分する、接触する、ネットワークに参入させる
雇用可能性＝プロジェクトが終わるやいなや、別のプロジェクトに組み込まれる能力
正義を遂行するための2つの要求
投資の公式＝安定性の犠牲→身軽な者、即応性や軽さ、自分自身のしか定着しない
模範的試練：試練は偉大さを証明（測定）する
- ③ 人間学と自然性
- 人間学：自律性の欲求、他者と分かち合い

結語

資本主義の第3の精神→結合主義的世界に適応した人間→所有よりも賃貸借、各人は自己の所有者、自己の生産者
労働に対する関係の変化：私的生活と職業生活、友人との夕食とビジネスでの食事、感情的紐帯と実利的関係、などのあいだの区別が困難になる

第3部「資本主義の新たな精神と批判の新たな形態」

第6章 社会的批判の再生

70年代後半と80年代における資本主義の移動：結合主義という別の論理（87）
ネットワーク状の新たな装置、新たな試練の漸進的な設置：可動性、プロジェクトからプロジェクトへの移動、多能性、職業訓練時のコミュニケーション適性
身分規定（本質的に集団的な管理様式）→コンピテンスの管理（集団的で個人的な管理様式）
資本主義の第2の精神と結びついた諸装置の弱体化：団体協約、労働組合、キャリア開発
資本主義の第2の精神の構築に参加した社会的批判の形態の無力化、労組運動と企業批判の弱体化

貧困や経済的・社会的困難の増大→憤慨→「貧困と搾取」を告発する社会的批判の再展開→世界に対して影響力をあらためて獲得させる、批判の諸カテゴリーの再定式化(88)
カテゴリー化の論理(正義、権利、正当性)と移動の論理(力、戦略、ネットワーク)の関連の分析、両社はほとんどの場合、の両立不可能(66)
社会的批判の再生: マネージメントの言説のレトリックの水準→プロジェクトによる市民体に固有な判断の形式と原理
市民体の形成なしでは、資本主義の新たな精神は利潤の道を正当化するために必要な規範的支点視点を欠くことになる

1 社会的批判の覚醒→排除から搾取へ

1) 排除モデル: 階級モデルとの違い、参入最低所得RMI

貧困層、困窮者、ホームレス、移民、身分証明書なき人びと→「持たないという事実」によって定義される(93)

社会問題としての排除: 不安定性、貧困

排除の政治化: 1995年12月の公的部門労働者のストライキと民間部門労働者の暗黙の連帯(96)

批判概念としての排除の困難→排除の主題を搾取理論に転換する必要性(100)

2) ネットワーク世界における搾取(109)

結合主義的世界における利己主義的態度

ネットワーク屋 対 つなぐ者

経済的資本、人的資本、社会関係資本

ネットワーク世界における機会主義的態度→雇用可能性低下の労働団体などに損害を与える

搾取の発見への手がかり: ある者の可動性にはある者の不動性が必要であることの理解(112)

ある者たちの不動性: 他の者たちが自らの移動能力から引き出す利潤の条件、不動の者は可動的な者たちとの関連において、以下の意味で搾取されている(114)

可動性の最も少ない者: 新たな紐帯を確立する能力(職業訓練用語で言われる雇用可能性)を発展させることができない→不平等の時間的拡大、不安定性の拡大

排除された者の条件: 紐帯の不在、既存の紐帯の維持の不可能性、紐帯を創出する能力の欠如

搾取する者の可動性 対 搾取される者のフレキシビリティ=不安をともなう不安定性

「最も可動的な人びとは、連鎖するすべての段階で、・・・より可動性の低い人びとから剰余価値を奪う。企業は、工場移転の脅かしの一時停止と引き換えに、従業員の賃金を減らし、雇用を不安定化させる。投資家は、長期投資と引き換えに、より高い報酬を求める。(125)

2 結合主義的正義の諸装置にむけて? (プロジェクトによる市民体の設置の諸条件)

・結合主義的搾取を減らすための提案の概観138

ネットワークの柔軟さと最も弱い者のよりよい保護(138)

2つの時間性、短期的な不連続の時間性(臨時雇用)と長期的時間性との調停

プロジェクトによる市民体の論理と両立可能な、自律性と安全性との新たな妥協

雇用可能性、コンピテンス、活動、活動契約、ベーシック・インカムなどの提案と提案(140): フレキシキュリティに関する議論と問題を共有している

・報酬のより正当な規則に向かつて

ネットワーク世界における正当な報酬とは何か: 一時的プロジェクトへのコミットメント労働(時間)からの所得プラス労働者の雇用可能性の向上(労働力の形成・再生産)

- 雇用可能性の観念：人びとの雇用可能性の権利と雇用可能性を発展させる企業の社会責務、長期失業という雇用可能性の喪失の責任をだれが負うのか：個人、企業、社会、政府（146）
- ――長期雇用とそれを前提とする技能訓練が崩壊したネットワーク世界
- コンピテンスの観念：雇用可能性の観念＝ある労働者が蓄積したコンピテンスの総体
 新たなコンピテンスの獲得または既得のコンピテンスの向上→雇用可能性の増大
 公的または民間機関によるコンピテンスの評価、ラベルづけ：排除との闘いの武器
- 労働法のアラン・シュピオの提案
- 雇用可能性の劣化に関する企業の新たな責任：人的資源コストの内部化を促進
 環境法の汚染者負担原則を援用、雇用可能性を劣化させるコストの外部化を規制
 - 労働をより広い「活動」（職業状態）の観念に含める：ある労働状況から別の労働状況に移る権利、この権利はすでに生まれている：職業訓練クレジット、時間貯蓄口座、失業者起業支援、教育訓練チケット
 労働一般（労働市場領域、家庭領域、職業訓練、無償奉仕、自営、公益における労働）「あるタイプの労働から別のタイプの労働への移行」を促進する法的装置
 人びとの職業状態の持続性と可動性の原理：ほぼシュミットの移動的労働市場論と同じ
- ・可動性の機会均等に向けて（155）：プロジェクトによる市民体の確立への関与
 紐帯を失った人びとの再参入による排除の阻止：「大きな貧困との闘い」、最低限の雇用可能性、最初のプロジェクトとの結合の試練
 職業的参入を目的とする援助雇用のすべて：連帯雇用契約、資格取得契約、参入最低所得RMI、地域青年担当局研修、参入の地域ネットワーク
 全員の可動性の可能性の発展：シュピオの活動の観念
 労働の形のみならず、あらゆるタイプのプロジェクトと可動性の正当化の試み
 労働時間、教育や職業訓練、消費、家庭での活動、公的活動、文化活動
 社会によって保証された社会的最低保障と労働契約による労働報酬との区別の乗り越え活動の観念の法的な発展
- ボワソナによる活動契約の提案（1995）：「20年後の労働」委員会の報告書
- 多様、異質で変化に富む諸活動の空間における人々の移動を促進するための労働関係の法的枠組みを修正する必要性
- 活動契約＝雇用主による労働者の可動性とフレキシビリティの要請と、正義の要請（雇用可能性を獲得し、ネットワーク世界の異質の空間移動しながら雇用可能性（コンピテンス）を運搬しようようにすること）との妥協の装置（161）
- ベーシック・インカムのだざまな提案：金銭面における活動概念の同等物162
- 所得と労働の切り離し、各人に働くか働かないかの自由、自己の活動を選択し、「独立した活動」をみずから定義する→賃労働、教育訓練、家事労働などの区別、あるいは、賃労働と奉仕活動の境界を弱めることになる（162）

第7章 芸術家的批判の試練

解放、自律性、真正性、自己実現の要求からの資本主義への批判

資本主義の新たな精神とプロジェクトによる市民体における芸術家的批判の再活性化

1 不安の顕在化

- ・結合主義的世界におけるアノミー

デュルケームが『自殺論』で導入した区別：利己的な自殺と規範の弱体化から生じるアノミー的自殺

厳密な意味でのアノミー：着手すべき行為についての不確実性の増大を示す172

将来へとみずからを投企することの困難さ

結合主義的世界の経験：時間的に持続するものを重視する規範（産業的世界）とフレキシブルな世界の人間的条件（状況に応じて事故を修正）との葛藤→アノミー

アノミーの様々な指標：解放と結びついた不確実性に由来する混乱を示す174

労働時間と非労働時間の区別や個人的友情と職業関係の区別、労働とそれを実行する者の人格との区別の消失 → 自己を将来に投企することが困難になっている176

2 いかなる解放か

- ・資本主義の第1の精神によって提供された解放：市場による解放の機会
- ・解放の要因としての資本主義への批判
 - 1 資本主義が解放の源泉でありうることへの疑問：新たな抑圧の形態
 - 2 自律性の要求は真の解放にいたることはできない
- ・強要された自己実現と新たな形態の抑圧
 - 人びとの偉大さ：自己実現能力によって評価
 - 資本主義の新たな精神に関連した装置：自律性と責任の要求を満たすために出現
 - 自律性と責任の増大 対 安定性の低下
 - 自律性とより多くの責任との交換（不安定化されていない労働者の場合）
 - 外部委託、企業内プロフィットセンター、品質サークル、プロジェクト・チーム
 - 多くの場合、強要された自律性：労働の新たな利用法（派遣、有期雇用）、雇用の安定性の低下、自律性の増大は同僚による管理強化をともなった

3 いかなる真正性か

- ・資本主義の第二の精神と結びついた非真正性への批判→大衆化への批判
 - 大量生産への告発＝人間存在の大衆化（標準化、差異の欠落）の告発
- ・資本主義の回答としての差異の商品化203
 - 多様な財や質の高い製品の提供、人間の特定（共感・魅惑・嫌悪）の質の商品化
- ・真正なものの商品化の失敗と不安の回帰
 - 真正なものの商品化の前提：真正性の鉱脈（風景、居酒屋、人間存在）の探査、維持されるべき特徴の選別作業（コード化）
 - ・事物をめぐる疑惑：エコ商品
 - 環境保護運動 対 エコロジー・マーケティング
- ・真正性への新たな需要→作りものへの批判
 - シミュラクルとしての非真正性への告発

4 非真正性批判の無力化とその妨害効果

- ・真正性の探究の失墜：「すべてがもはやシミュラクル、スペクタクル（見世物）でしかないとすれば、批判的観点をどこから取りうるのか」（222）
 - デリダの議論
 - ・関係をめぐる不安→友情とビジネスのあいだで
 - プロジェクトによる市民体の枠組み
 - 無私無欲な関係と職業的関係の区別の消失による不安
 - 結合の確立：対面・近接性による関係の根本的な不確実性が縮減される223
 - 共感、共通の趣味、関心の発見といった友情、愛情
 - 友情関係とビジネス関係の区別の混乱
- 結合主義的世界における他者との関係の本性をめぐる混乱：適応性・可動性の要求と真正性の要求（信頼、友情）との本質的矛盾から生じる（224）

出現する結合の機会を利用しうるように、移動し、状況に適応するという要求：ネットワーク世界は、差異によって規定される存在と大衆化・標準化との対立をしらない。

関係がそれを構成する諸要素に先行

結合の活動（友情）から金銭的利益を引き出す場合：媒介の商品化

- ・ネオ・マネージメントと操作の告発

人格的關係における真正性の重視と、適応・可動性の要求との緊張が中心にある（226）
管理職→インスピレーションを与える、コーチ、リーダーへと転化

真正な関係が動員の技術と結びついている

- ・何者かであることと、フレキシブルであることとの緊張

適応の要求と真正性の要求との矛盾→人格そのものの中心に滑り込む

フレキシビリティの要求と時間における永続性を備えた自己を所有する必要性との緊張
→結合的世界における不安の源泉

特性を変えることでさまざまな世界に移行するのに十分な柔軟さ

状況を認識し、状況が自己に要求する特性を活性化させるコンピテンス

ネットワークを循環するための基本的要件、卓越さの新たなモデル

際立ったもの、関心を引かねばならない必要性

自己の人格のなかに他者を引き寄せる『何か』を保有していなければならない

適応力以外のものが必要である

ネットワークによる市民体：人格的關係の妥当性を保証する真正性の要求と適応性の要求（真正性の剥奪）とを同時に取り込みことで、結合的世界の主要な緊張を取り込むことになる（233）

- ・プロジェクトによる市民体と、商品化可能なものの再定義

人格とその労働力の区別、無償の関係と利害関係の区別：資本主義において中心的役割
＝商品化可能なものとそうでないものを分割するのに動員される

商品化可能なものと商品化不可能なものとの境界線の移動：市民体による再調整

ゴルツの参入最低所得RMIとBIを批判する論理

ネットワークの論理→人間存在の商品化の増大を正統化さえしている238

結論→芸術家的批判の再活性化？

商品化にどのような制限を課すべきかという問題を再考

- ・解放の要因としての安全性：可動性の要求から解放の要求へ！？

可動性を保護し、「可動的労働者」に地位を付与する規則：アラン・シュピオ243

可動性の要求は安全をもたらす装置（地位の擁護）との妥協においてのみ、解放への要求へと進みうる244

- ・商業的領域の制限

人間の商品化の方向への拡大を制限

需要の視点＝社会的批判の視点、平等な尊厳（基本財への平等なアクセス）の立場から、万人に平等なアクセスが可能であることが道徳的に必要とみなされる財、ウォルター

『正義の領分』によれば、基礎的公共サービス（警察）、政治的権利、安全への準拠供給の視点＝芸術家的批判の視点、商品化することが財の固有の尊厳に反する（身体、

芸術作品、河川）246

エコロジック的批判：存在物の多元性と特異性に価値を与える立場

追記 運命論に抗う社会学

社会的批判と芸術家的批判：多くの点で矛盾、しかし、互いに制限するという意味で切り離すことができない。両方の批判の維持→資本主義による破壊に立ち向かう希望318

若干の論点とコメント

- 1) プロジェクトによる市民体の構築（フランス版フレキシキュリティ・活動契約）
フレキシキュリティ、移動的労働市場として、EUレベルで議論されている。
可動性・移動性と解放への方向はいかに関連するか。

- 2) ネットワークの論理と新自由主義の論理：類似か、一致か、補完的か？
活動、結合の増殖、媒介の重要性、自己の所有、プロジェクト・リーダー
国家の法的介入による競争的市場秩序の構築、労働者も自己の雇用可能性を向上・革新させる企業家（競争ゲームのクターとしての企業形式の社会全体への拡大）

- 3) 今日の争点としての労働の再定義

- ・労働の概念の拡大：労働の概念に雇用労働に加えて、家事労働、教育・訓練を入れる
- ・活動の観念に、雇用労働、無償労働、家事労働、教育的労働を入れる
- ・ワークシェアリングによって、社会統合の要素としての雇用労働を分配

- 4) 雇用可能性（人的資本投資）への2つのアプローチ

A第3の道（ギデنز、ニューレイバー）

機会の平等、人的資本投資＝自立へのスプリングボード、教育と子供への投資

B社会民主主義的味方

ライフチャンスの保証、人的資本投資と保障性、生涯的職業訓練・女性・教育への支出

参考文献

若森章孝（2013）『新自由主義・国家・フレキシキュリティの最前線』晃洋書房

荒井壽夫（2012）「現代フランスの雇用戦略に関する一考察——「フランス版フレキシキュリティ」と「職業的社会保障」の工作と対抗」『滋賀大学経済学部研究年報』19

以上